

## 【令和4年度】第2回学校運営協議会実施報告

令和4年度第2回学校運営協議会を以下のように開催しましたので報告いたします。

- 日時：令和4年11月17日（木） 10：00～11：30
- 場所：横浜南陵高等学校会議室
- 参加：学校運営協議会委員（8名）、事務局他（4名）

### ○内容

- 1 校長挨拶
- 2 令和4年度学校運営協議会委員の部会構成について
- 3 授業見学
- 4 報告
  - ・現在の教育活動について
  - ・ICT利活用授業について
  - ・インクルーシブ教育実践推進校の指定について
- 5 議題
  - ・学校評価について
- 5 各委員から意見・感想等
- 6 校長より
- 7 諸連絡（事務局）

### 議事録

神奈川県立横浜南陵高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立横浜南陵高等学校 令和4年度 第2回学校運営協議会
開催日時	令和4年11月17日（木） 10：00～11：30
開催場所	神奈川県立横浜南陵高等学校 会議室
出席者	[委員] 小川 昭（横浜市港南区日野第三町内会長） 瀬古 恵美（横浜リハビリテーション専門学校副校長） 村井 祐一（田園調布学園大学人間福祉学部社会福祉学科教授） 村山 小百合（横浜市立日野中央高等特別支援学校長） 松本 麻理子（横浜市立日野南中学校長） 麻生 美香（横浜南陵高等学校PTA会長） 細川 一美（いちょう会（元PTAの会）会員） 戸田 崇（横浜南陵高等学校長） [事務局] 須田 孝之（副校長）、牛島 操（教頭）、加藤 博信（総括教諭） 向山 真衣（教諭）
開会	○学校長挨拶 <ul style="list-style-type: none"><li>・委員委嘱依頼（前回欠席者）</li><li>・今年度はコロナ対策の時差通学を行っていますが、それ以外は通常の教育活動を行っている。</li></ul>

- ・落ち着いていますが、引き続きマスクの着用等感染症防止対策を実施していきたいと考えている。
- ・6月には合唱コンクールも実施。その後も20周年式典、南陵祭、修学旅行は学年全員が参加した。体調不良者を出すこともなく帰宅後も問題なかった。体育祭は保護者も参加でき実施した。
- ・今年度は予定した行事をすべて行うことができた。

○委員紹介と部会の構成

小川様・瀬古様・村井様・村山様・松本様・麻生様・細川様

《報告》

○現在の教育活動について

- ・20周年式典の報告（同窓会長の挨拶、周年行事費で特別室のプロジェクターやWi-Fiのアクセスポイントの設置等を寄贈していただいた。）
- ・旅行代金の高騰の影響から、修学旅行の行き先を令和6年度入学生から沖縄方面から広島周辺に変更する。
- ・体育祭は好天に恵まれ実施することができた。感染症防止対策に関しては、熱中症も考慮に入れマスク着用種目と非着用種目を指定して行った。生徒からは応援合戦をやりたいという話があったが、感染症防止対策をしたうえで応援パフォーマンスを行った。非常に素晴らしいパフォーマンスで生徒たちはとても良い表情をしていた。
- ・その他の活動についての報告  
社会福祉部 9月手話パフォーマンス甲子園出場 日本ろうあ連盟賞受賞  
ボウリング部 県大会にて女子優勝、男子総合3位  
12月の全国大会へ出場（男子2、女子1チーム）

○ICT利活用

- ・南陵含め県内5校が指定された。
- ・本校は各教室プロジェクター使用可能。
- ・ICTスキルを高めるだけでなく、どのように学力を高めていくかが課題で、教員も資質向上のために、プロジェクトチームを編成している。
- ・生徒は1人1台端末を使用し、お互い情報交換を行い自己の課題を見つけている。
- ・今後、ICT機器を家庭学習に使用したいが、家庭ごとの環境が整わないことなど課題があり、試行錯誤している。
- ・夏の生徒の授業評価から、生徒がICT機器を使用した学習に意欲的に取り組んでいることがわかる。
- ・夏休みには、3グループに分けて教員研修を行った。

○インクルーシブ教育推進実践校の指定について

- ・3期計画が改定・発表された。共生社会の実現に向けて、現在すでにパイロット校3校を含む14校が実施。さらに保土ヶ谷、白山、菅高校と本校が追加され、全18校となる。本校としては、実践校の見学や中学生向け説明会参加等を行い、これからリソースルームの環境整備等の準備を進めていく。今年度は副校長をリーダーに総括教諭を交えた取組みを行う。
- ・この実践校に選ばれたことは本校のルーツ・立地を考えれば当然のことと考える。日野特別支援学校との交流・共同学習が進んでいることをとても心強く感じている。

《協議》

○学校評価目標中間まとめについて

（質問）ICTに関して、本校ではどのようなアプリを使っているのか。

(教頭) クラッシーを連絡ツールとして使用している。今日、見学した授業はまだ1人1台パソコンではない2年の授業だった。

(質問) ICTの活用について紙に書き込みたいというニーズが一定程度いる(二分されている)と思う。今後は紙を使わないのか。

(教頭) 現段階では二分されている。書くことも大事であるのでいいところを活用している。一本化していくわけではない。

(質問) セキュリティーはどうなっているのか。

(教頭) 1人1台端末に関しては、セキュリティーをかけた状態で契約を結んで購入している。生徒には早い段階で、授業のオリエンテーションで対応している。

(質問) 福祉マインドを培うとは具体的にどう定義されたのか。どのような評価軸なのか。他者尊重、共感、マネジメント、エコロジカルなど6個のどの要素に力点を射ているのか。評価指標と目指すべき目標は何か。大学等ではゼミレベルでVRとメタバースを活用している、授業ではアバターを使って生徒は授業をしている。紙を置き換えるのではなく、可能性を追求したほうが良いのではないか。

(校長) 本校の福祉マインドの明確な意義はなく、これは課題でもあると感じている。南陵の育てたい生徒像として「自分の大切さ、他の人の大切さを認めるということ」を生徒には繰り返し伝えている。今後は育てたい生徒像と福祉マインドを関連付けて、各行事で何を育むのかを考えていきたいと思う。令和の日本型教育とからめて、個別最適な学びのための1人1台端末を使用し、今後のメタバース社会につなげていける学校教育をしていきたい。まずはツールとして活用する力を身に付けていきたいと考える。

(意見) ツールは今あるものの代替となってしまうが、これからICTは新しい社会を形成するものであるから、社会をどう変えていくのかを考えていく段階だと思う。情報はあっても当たり前なので、それをどう使うかが重要。ちなみに、私は福祉マインドを自分の言葉で説明できるかどうかにかかわっている。福祉マインド実践講座を教えていて、全学生に聞いている。

(質問) 欠席した時、在宅でも学べるのか。定期試験はどう変わっているのか。フォームでアンケートを取ると集計がいらないのでとても楽になったと思う。先生方も活用しているのか。

(校長) 新型コロナで欠席の生徒には中継できるようにしている。また、クラスルームで課題配信をしている先生が多い。フォームのアンケート機能はよく使っている。

(教頭) 限定公開でYoutubeを利用している先生もいる。

(意見) ICTは先生の効率化を図れる。生徒の理解を促し、視覚的に訴えるイメージだった。その先が更にあるということは、世の中が変わってきているということですね。授業を見ていて、南陵の優しい雰囲気を感じた。昔の先生とは違いますね。

(意見) 南陵と日野中央高等特別支援学校の関係が近くなった実感がある。今、南陵との交流をテーマに論文を書いている。本校横の階段を通るときに生徒、先生方が挨拶をするようになったと感じる。今いる生徒たちは全学年が交流できていると思う。今後は交流から一歩先に進むときだと思う。毎年、初任の先生方の研修に来ていただいて先生方の理解も深まっていると感じる。授業の中で、南陵の健康福祉棟の作業を通して、生徒の南陵との距離が縮まっている。鞆を持って、行ってきますと気軽に行ける関係性になっている。生徒の口から、「南陵は」と出てくることが増えた。

今年度は文化祭の日程がかぶっていたので、来年度の文化祭日程を物販も含めて相談させていたい。

私もインクル校を見学している。中学生はインクルか日野特別支援かを検討するようだ。

本校では1人1台端末を導入して3年目になった。すでに文房具になっている。テストをフォームで行い、100点になるまで繰り返しやっている。この導入のときも南陵を見学させてもらったことがきっかけになった。南陵とは関係性ができていて、垣根がなくなってきている。今後もよろしくお願ひしたい。

(意見) 先生方の言葉がけで生徒が自信を持てる。ICTも大事だが、コミュニケーションも大事にしてほしい。体育祭に参加できて、とてもよかった。それぞれの関係性が良いのを感じた。

○まとめのあいさつ

(校長)

今後も、皆さんの御意見を頂戴しながら取り組んでいきたいと思う。事故防止、不祥事防止のご意見も次回に頂戴したい。

閉会